

コスタリカ内政・外交主要事項（2018年10月）
2018年10月の当国内政・外交主要事項は以下のとおり。

【要旨】

内政

- アルバラード政権発足時より取り組んできた財政改革法案が第一審議を通過。今後の憲法法廷による違憲審査の結果が注目される。
- ファブリシオ・アルバラード元大統領候補が、所属していたPRNから離党。PRNの国会議員8名もそれに追随し、国会が更に多党化することになった。

外交

- 隣国であるニカラグアやベネズエラでは不安定な状況が続いており、コスタリカも情勢を注視している。コスタリカ政府は、ニカラグアからの政治犯をかくまうなど、ニカラグア政府に対して平和的な解決を行うよう引き続き求めている。
- ドブレス大統領夫人が緑の気候基金総会に参加するために訪韓。自身が担当する都市交通整備に関して、活発に働きかけを行った。

I 内政

(1) 財政改革法案の第一審議通過

5日、コスタリカ国会において、財政改革法案が第一審議を通過。財政赤字の解消は、本年5月に発足したアルバラード新政権にとって、最優先課題となっているが、そのための財政改革法案は国会内での調整に時間を要し、当初想定していた8月の可決は達成できなかった。また、9月には公務員労働組合によるストライキを引き起こすなど法案の先行きが危ぶまれていたが、政権発足から5か月が経過し、ようやく第一審議という関門を突破することができた。

第一審議の投票の内訳は以下の通り。

●賛成票：35票

(内訳：与党市民行動党(PAC)議員10名、国民解放党(PLN)議員15名、キリスト教社会統一党(PUSC)議員8名、キリスト教社会共和党(PRSC)議員1名、無所属1名)

●反対票：22票

(内訳：国家復興党(PRN)14名、国家統合党(PIN)3名、広域戦線(FA)1名、PUSC1名、PLN2名、PRSC1名)

第一審議通過後、コスタリカ中央銀行、地方自治体、国立大学、司法府等の関係機関に対し、同法案の中で自身の機関が関係する部分に関し精査した上で、国会にその見解を伝えるため、8日間の作業日が与えられる。その後、国会議員10名から要請があれば、最高裁判所憲法法廷において、合憲性についての審査を実施できるが、PRNから要請があったため、同審査が行われることとなった。憲法法廷にも、30日間の審査期間が与えられているので、第二審議(最終的な採決)は早くとも

45日後、即ち11月中旬になる見込み。

財政改革法案が違憲と判断された場合、同法案は廃案となる（憲法法廷は過去に二度違憲を宣告した。）。今回の場合では、①法案そのものが違憲とされるケース②法案の中のいくつかの条項を修正するよう求められるケース③司法府やその他の政府機関の自治に関する重要な法案のため、略式可決法（Via Rapida）が適用されず、第二審議では国会の絶対過半数である38票の賛成票が必要であると判断されるケース④法案がそのまま認められるケースなどが考えられる。同法案の中で財源確保の核となる部分に修正が入れば、法案が骨抜きにされることが懸念される。③のように、絶対過半数の賛成票が必要との判決が出た場合、第一審議での獲得票35票では可決にわずかに及ばないため、さらに国会議員に支持を求めていく必要がある。

同法案の第一審議通過に関し、アルバラード大統領は自身のFacebookページに歓迎のコメントを表明。民主主義的な方法で可決されたことに対し国会に謝意を伝達すると共に、最終的な可決に向けた取組を続けていくと述べた。

（2）PRNの分裂

23日、ファブリシオ・アルバラード国家復興党（PRN）元大統領候補が、同党を離党し、新たに新共和党（PNR）を発足させた旨発表し、他のPRN議員7名（注：後にもう1名の議員がこの動きに追随）も、アルバラード元候補と共に離党する旨発表した。これに伴い、PRNが国会で占める議席数は6議席まで減少し、独立した8議員は無所属となった。当国では、国会議員選挙は比例代表制で行われるため、離党した議員もPNRに所属することはできず、無所属として議員職を務めることになる。

2018年大統領選挙において、当初PRNは有権者からいわば「ノーマーク」であった。しかし、同性婚を認めるようコスタリカ政府に要請した米州人権裁判所の勧告以降、同党から大統領に立候補したアルバラード候補が、同性婚に対する強い反対をいち早く示したことで、急激に有権者からの支持を獲得。それに伴い、PRNの支持率も急速に上昇し、その結果、PRNは、57議席中14議席を獲得するに至った。そのため、アルバラード元候補は、自分こそがPRNへの支持率の大幅アップに寄与したとの自負をもっていたが、現PRN党首兼院内総務のアベンダニョ議員は同元候補を押さえつけ、自身が党を掌握しようとしたため、リーダーシップをめぐる争いが党内で顕在化した。

さらに、選挙活動にかかった経費をめぐる、様々な資金疑惑が噴出し、この騒動から距離を置く形で、アルバラード元候補が離党を決意するに至った。

（3）キャンベル外相による人事任命をめぐる疑惑

25日、キャンベル外相は、自身の宗教上の名付け子、キャサリーン・リベラ氏を外務大臣顧問として縁故採用した疑いで、議会の歳出・歳入委員会に招集された。リベラ氏は、キャンベル外相の親しい友人の娘でもあったため、このような疑惑が噴出したが、キャンベル外相は縁故採用を否定し、彼女の才能を鑑みて採用したと説明。結局リベラ氏は、キャンベル外相にとって迷惑になることを避けるため、職

を辞した。

II 外交

1 二国間関係

(1) 対ニカラグア関係

ア 10日、コスタリカ政府は、ニカラグア人権擁護活動家のアルバロ・レイバ事務局長の政治亡命を正式に受け入れた旨発表。今般のニカラグアの危機を受け、当国政府が政治亡命者を受け入れたのは初。同事務局長は、ニカラグアが政治・経済的危機にある中で人権擁護運動を実施してきた結果、自身は危険な状況に置かれているとし、当国外務省に対して保護を求めている。アルバラード大統領及びキャンベル外務大臣も同氏の亡命申請を受理し、政治亡命者として受け入れることに至った。

イ 15日、ニカラグアにおいてデモに参加したために拘留されていたコスタリカ人アジャン・コルデロ・オコン氏が解放された旨外務省がプレスリリースを发出。同氏は24時間以上にわたって拘留されていたが、特に健康状態に問題は無く、身体的及び心理的虐待も受けていないと発表された。同プレスリリースにおいて、コスタリカ外務省がニカラグアにおける人権侵害を批判したことに対し、ニカラグア政府は猛反発。「コスタリカの姿勢は干渉主義的であり、横柄かつうぬぼれている」と強く批判した。

(2) 対ベネズエラ関係

16日、アルバラード大統領は、ベネズエラのマドゥーロ政権を人道に対する罪などで国際刑事裁判所に訴えるとしていたアルゼンチン、カナダ、コロンビア、パラグアイ、ペルーの国々の動きに加わると発表した。2018年9月、これらの国々は、2014年2月12日からベネズエラで発生したとされる「人道に対する罪」に関する捜査の開始を国際刑事裁判所に求めている。

これに対し、ベネズエラはコスタリカが、財政改革法案等の国内問題から目をそらさせるためにベネズエラを批判しているとして、強く反発。実際この動きに米国は加わっていないものの、コスタリカは米国に追随していると批判した。

(3) 対韓関係

10日から11日にかけて、ドブレス大統領夫人が韓国のケソンを訪問し、緑の気候基金の総会や「気候のための民間投資会議」に参加した。同訪問には、アギラール外務次官も同行した。

ドブレス夫人は、経済を脱炭素化するためには、高速通勤電車や、電力化された交通手段などの持続可能な交通手段が必要であると強調した。この目的から、緑の気候基金より、約16億コロン（約3億円）が供与されることとなった。

滞在中、ドブレス夫人はヒュンミー（Hyun-mee）国土インフラ交通大臣やグローバル・グリーン・グロース研究所のスタッフと意見交換を行った。

2 国際場裡での動き

(1) 米州人権委員会のミッション受け入れ

16日、米州人権委員会の特別報告者バルガス氏が当国を訪問し、ニカラグア人移民に関する状況を視察した。アルバラード大統領は当国における移民への取組を説明した他、人種差別のない社会を作りあげる責任を感じていると述べた。

また、アギラール外相代理からも、当国での取組の説明があり、移民問題はコスタリカのみならず国際社会全体で取り組むべき課題である旨主張した。

2 キャンベル第一副大統領兼外相の外遊

(1) イタリア訪問

17日から19日、キャンベル外相はイタリア及びバチカン市国を訪問。バチカン市国では、ローマ法王との面会を許され、ニカラグア情勢等について話し合った。イタリアでは、メロ伊外相と会談を行い、気候変動や二国間貿易等のテーマについて話し合った。

その他、キャンベル外相はディサント・イタリャーラテンアメリカ国際機構事務局長、センチナイオ農業・林業・観光大臣と会談を行った。センチナイオ大臣との会談においては、両国の覚書が結ばれ、地方や沿岸地域の開発、農林水産業に対する危機管理等において協力を深めていくことが決定された。

3 SICA関係

24日、ベリーズにて閣僚定期会合が開催。コスタリカよりアギラール外務次官が出席した。訪問中、アギラール次官は議長国であるベリーズと、第1回政治協議を実施した。